倫理教育におけるプレイバックシアターの活用

吉川ひろみ（県立広島大学）yosikawa@pu-hiroshima.ac.jp

目的
県立広島大学における倫理関連科目でのプレイバックシアターの活用を紹介する。

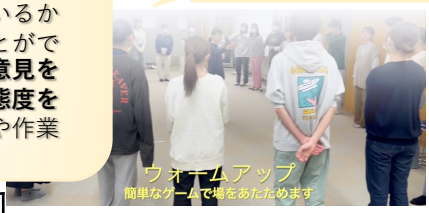
倫理原則，理論については，講義やテキストで教授している。
現象と倫理学の知識を結びつけるコメントを行い，学生にはエッセイの提出を求めている。

ソシオメトリ
ウォームアップ

人と鏡というゲームをした・・・仲の良い友人であったため、恥ずかしがらずに、楽しくできた。しかし、私は、**ペアの子が仲の良い友人ではなかった場合、少し恥ずかしさが勝って**しまい、オープンになることをためらってしまった

GWを楽しみにしている人とそうではない人というように端から端に並ぶ・・・自分よりもGWを楽しみにしていない人が多いなと感じた。どのように感じているかと聞かれた際に自分の感情を上手くまとめることができず、発表ができなかった・・・**率直な感想や意見を述べ、多様な考えに興味を持って知ろうとする態度を示し、オープンになる**ことが授業に参加する時や作業療法士として働く際に必要になると考えた

（学生のコメント）

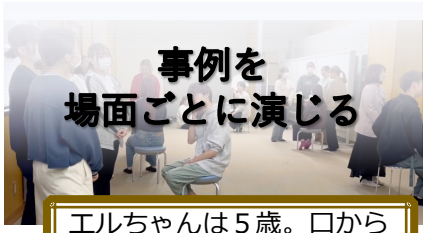


演じる練習

２人で決められた役で、即興で演技した。泥棒と警察、不良と先生など自分が思い描く泥棒と先生になった。これをしてみてペアが変わると恥ずかしさが違うことに気づいた。しかし将来はどんな人と関わるかもわからないので**恥ずかしさを捨てることが大事**なのではないかと考えた

	A	B	C
亀を助ける	亀	太郎	子ども
竜宮城	乙姫	魚	太郎
玉手箱を開ける	太郎	玉手箱	煙
その後を創作			

太郎がおじいさんになって、家にいた見知らぬ家族たちには冷たくされ、そして家も無くし、浦島太郎は途方に暮れていた。そこにあの時のカメが現れて、カメが恩返しをしに来てくれて、カメと一緒に旅に出て、幸せに過ごすというストーリーにした。私は実際に浦島太郎を**演じてみて、相手にされないことや一人でいることの寂しさや悲しさを感じた**



エルちゃんは５歳。口から食べると肺炎になりやすいので，医師から止められている。病棟で母親がこっそり，エルちゃんに好きな物を食べさせているところに遭遇した。どうする？

母親に医師たちに言わないで、と言われたにもかかわらず、すぐに医師たちに相談し、医師たちに任せるようにした・・・母親からの信頼性や母親への誠実さを失う行動をしてしまった・・・嬉しそうに食べる娘の姿を見たいという、母の**思いを尊重するべき**だ・・・母親と話をすること、母親の**感情に寄り添いながら**最善の治療を行っていくことが求められると考えた

ストーリー

作業療法倫理学
・障害　・人権

医療福祉倫理学特論
・専門職としてのディレンマ

実際に自分のからかわれた話をすることは勇気のいることだ・・・一方で、自分の体験の話をしていく中で、友人たちが私の体験を演じてくれたため、その時の自分の**気持ちを分かってくれた**のではないかなと思った・・・実際に話すことで、人前に出ることへの**自信に繋がり**・・・この**経験を積むことがオープンな心を育てる**とともに作業療法士として活躍するために重要であると考えた。今までなかなか人前に出ることを恥ずかしがっていたが、少しはためらいがなくなったのではないかと感じた

自分の直面した困難を俯瞰的に、客観的に見ることで、相手は何を望んで、期待していたのか、自分はそれにどういった対応をしていたのかを落ち着いて捉えることができた・・・事例は異なっていても、苦戦したことや置かれていた**状況などを共有することで、解決のヒントや今後のためのアドバイスが見つかる**ことは、とても面白い・・・職種が異なっていても、同じように患者さんのためにと利他的に考え苦悩されている仲間がいて、自分の悩みにも共感を示してくれるということを知れたことが良かった

結語
倫理学の知識は，状況を分析，理解，問題解決の糸口を探るために有用だと考えている。この**知識を接地，身体化する**ための手法としてプレイバックシアターは有用だと考えている。知識と経験を結びつける機会がもっと必要である。